

なぜF1観戦？なぜノーマスク？ 首相がアピールしたかったものとは

2022.10.10 毎日新聞



F1日本グランプリ決勝のスタート前、角田裕毅選手を激励する岸田首相＝三重県鈴鹿市の鈴鹿サーキットで2022年10月9日午後1時45分（代表撮影）

政権発足以来、最低の支持率となっている岸田文雄首相。その首相が9日、三重県鈴鹿市の鈴鹿サーキットで行われた自動車F1シリーズの日本グランプリ（GP）決勝を観戦すると、インターネット上では「なぜ首相がF1に？」と疑問視する反応が相次いだ。そこで、岸田首相の言動を追ってみると、今回の観戦に二つの思惑が浮かんだ。【デジタル報道センター】

「なぜ、岸田さんが」「支持率稼ぎか」――。岸田首相の観戦に対し、ネット上ではその意図を図りかねる投稿が続いた。また、「総理にそんな暇あるのか」「円安対策など問題は山積み」などとF1を見ている場合ではない、といった批判の声も目立った。

一方で、日本GPを現役首相が訪れたのは初めてだったことを踏まえてか、「他国では首脳が来る

のは普通のこと」「今まで日本の首相の出席がなかったことの方がおかしい」などとして観戦を歓迎し、「ステータスの高いスポーツ」として認知されることでF1人気が高まることへの期待を示す投稿も目立った。

では、岸田首相の思惑はどこにあったのか。一つ目は、新型コロナウイルス対策で実施してきた水際対策の緩和と旅行需要喚起策「全国旅行支援」の実施をアピールすることだ。

岸田首相は観戦後、記者団に「11日から水際対策も緩和される。さまざまなイベントを通じて、全国各地で多くの国民の皆さんに、こうしたイベントを楽しんでいただき、日本の活力につなげていただければと、こうした期待も感じたところであります」と話した。

この日、屋外でのセレモニーなどではマスクを外して臨んだ岸田首相。新型コロナ対策のフェーズが大きく転換することを、世界が注目するF1の舞台で国内外に印象づける狙いがあったようだ。加えて、低迷を続ける経済を全国旅行支援などで回復させることで、政権浮揚を図りたい思惑もあったとみられる

そして、こうした経済回復策以上に力を込めた言葉が「合成燃料」だ。二酸化炭素

（CO2）と水素からつくる合成燃料は「人工的な原油」ともいわれ、ガソリン車や航空機の燃料として利用が期待されている。

岸田首相は「レースを通じて得られたデータを次の技術開発につなげていく、こうしたデータ分析のために取り組んでいる多くの皆さんの姿も拝見し、貴重な経験をさせていただきました」と視察の成果を強調した。

その上で「本日は合成燃料、これはF1においても2026年から、合成燃料を使うなど、そうした技術においても、さまざまな進化が予定されているわけです」と「合成燃料」に重

ねて言及し、今後の具体的な構想にも踏み込んだ。

「今回聞かせていただいた話も参考にし、来月にも関係閣僚と共に、自動車産業の方々と直接意見交換させていく場を持たせていただこうと思っています。次のモビリティ政策について考える、こうした場にもしたいと思っています」

岸田首相が合成燃料に言及したのは、この日が初めてではない。21年11月、英国で開かれた国連気候変動枠組み条約第26回締約国会議（COP26）での演説で「自動車のカーボンニュートラルの実現に向け、電気自動車普及の鍵を握る次世代電池・モーターや、水素、合成燃料の開発を進める」と表明している。

ただ、この時は他国の反応が薄かったとの見方もある。今後、この分野における議論の活発化を図り、世界にアピールしたい思惑もにじんできた。